

「岐阜県こどもの貧困対策実行計画（素案）」に対する県民意見募集で寄せられたご意見と県の考え方

意見募集期間：令和6年12月25日（水）～令和7年1月24日（金）
 いただいたご意見：5件（4名）

No.	ご意見（要旨）	ご意見に対する県の考え方
1	子どもが生まれ育つ家庭環境等に左右されることなく、すべての子どもが安心して生活でき夢や希望が持って健やかに成長していったほしい。学習支援ボランティアの育成、子どもの居場所づくり（子ども食堂、遊び交流の場など）や給付型奨学金の支援などが効果的かと思われるので取り組んでほしい。 合計特殊出生率の低下等により少子化社会の到来が予測されている。そうであれば生まれてくる子どもすべてを丁寧に育てていき社会的自立までもっていけば、貧困は防げるのではないか。この計画では、現状、施策の分析をし、当事者や支援団体等からの意見を大切にされ計画の推進内容が分かりやすく記載されています。この計画に沿って推進されますことを願っております。	本計画に沿って、ご意見のあった学習支援ボランティア育成、居場所づくり、修学に向けた経済的支援など、子どもの成長に応じ、貧困の解消に向けた切れ目ない支援を進めてまいります。
2	子どもの居場所や子ども食堂など、子ども自身がいてもいいと思える場所が充実してきたことについて、とても素晴らしいと思います。 定期的に通うことによって、子どもたちが普段家族や学校の友達に話せない気持ちを何気なく出せる機会が出来て、食事・勉強の面だけでなく様々な悩みを聞いてもらえるようになると思います。 一方で利用してみたくても踏み出せない気持ちを持っている子どももまだたくさんいるように感じます。保護者の周知だけではなく子どもにもどのような場所なのか、分かりやすく伝えていくことが大事ではないかと思いました。 家族以外の大人と関わることで、自分が社会の中で大切に思われていることを実感し、自己肯定感を高く持つ子どもが育っていくことを願います。	子どもたちがほっとする時間を過ごせる場所であるとともに、子どもの日々の様子を見守り、援助を必要とする状況に気づき、支援先と連携する役割を持ったこどもの居場所の充実に引き続き取り組んでまいります。 また、居場所運営団体、市町村、関係機関とも連携しながら子ども自身へも含めた居場所の周知啓発に努めてまいります。
3	岐阜県こどもの貧困対策実行計画についてはきめ細かな取り組みがされていると思いました。 「岐阜県子ども調査」の調査結果を見ると、中学校（中2）の学習の理解度が所得区分Iで「いつもわからない」18.9%という数字に驚きました。全体に対して1割以上も多くこれでは不登校につながっていく割合も多くなってくると感じました。 無料の学習塾により一人でも多くの子供に勉強の場を与えてもらえることは大変いいことだと思います。 子供の居場所は、学習面または生活面においてもコミュニケーションをとれる大切な場所だと思います。地域住民等の見守りにより子供たちが健やかに成長していけるような街になるといいなと思いました。	子どもたちがほっとする時間を過ごせる場所であるとともに、子どもの日々の様子を見守り、援助を必要とする状況に気づき、支援先と連携する役割を持ったこどもの居場所の充実に引き続き取り組んでまいります。
4	11ページの（3）小学校入学時点でひらがなが書けたか についてですが、5行目の 9.9ポイント低くなっています とありますが、9.9ポイント高くなっています だと思います。	ご意見を踏まえ、以下のとおり計画案を修正します。 ○（3）小学校入学時点でひらがなが書けたかについて 「また、平成30年度調査と比較して、所得区分Ⅰのポイントが9.9ポイント高くなっています。」

No.	ご意見（要旨）	ご意見に対する県の考え方
5	こども自身への支援に加え、家族・家庭支援を豊かにすることが大事。 保護者等当事者のネットワークづくりの場（保護者の会など）なども重要ではないか。	ひとり親家庭など様々な困難を抱える保護者が、孤立することなく悩みや困りごとを共有し、必要なサービス支援等につなげていくため、当事者のネットワークは重要であると考えています。 市町村や、関係機関とも連携し、あらゆる機会を通じて、当事者団体、支援団体、支援機関に関する情報提供に努めてまいります。